

問 認知症総合支援事業について、予算が減少している理由は。

答 認知症総合支援事業として、認知症初期集中支援チームの設置、認知症カフェの実施、早期発見のためのQRコード付きステッカーの配布などを行っているが、この配布について、利用実績に応じて予算を削減した。

反対討論

この制度は高齢者の介護を家庭介護から社会で支える制度として実施されてきましたが、現在の制度運用はこの目的に逆行しています。今進められている見直しの内容は軽度の支援者を制度から外す方向で進められています。このような制度改革には反対します。

賛成討論

本制度は、12年度から施行され、なくてはならない福祉サービスの1つとして住民に理解されています。今回の予算総額は、29億2,416万円で、前年度比3.2%増としています。

慎重審議の結果、歳入歳出ともに適正に予算算出されていると考え賛成します。

公共下水道事業

本予算の総額は、12億1,946万6千円で対前年度比20.0%の増となっています。

歳入の主なものは、使用料および手数料、繰入金、市債です。

歳出の主なものは、事業費、維持管理費、公債費、総務費です。

問 マンホールトイレの設計は30年度に行うとのことだが、その後の予定は。

答 30年度に設計を行い、31年度から防災拠点や指定避難所などの7か所に設置する。

反対討論

本事業は、市街化区域内の住環境整備、河川の浄化を目的に進められています。しかし、都市計画税を納めているにもかかわらず、受益者負担金を課しており、その基準となるものが、下水道の使用状況とは関係のない宅地面積になっているのは不当であり反対します。

賛成討論

歳出では、西地内の雨水枝線工事や下水道施設改築更新事業の実施、2年後の公営企業会計移行の準備など必要な事業展開となっています。歳入の受益者負担金は適切と考えます。厳しい財政状況のもと、下水道整備促進を図る予算であり、賛成します。

水道事業

本予算は、収益的収入額を11億2,077万6千円、収益的支出額を10億1,518万1千円とするものです。

資本的収入額は4,599万4千円、資本的支出額を3億5,343万8千円とするものです。

問 30年度の給水戸数は何戸増加すると見込んでいるか。

答 29年度予算と比較すると410戸増加する見込みである。

反対討論

水道事業は、低料金で安定的に良質の水を供給しなければなりません。水道料金には消費税が転化されています。消費税8%への引き上げに際し、内税方式から外税方式に変更しました。さらに、10%になれば市民生活は圧迫されます。消費税転嫁には反対です。

賛成討論

水道事業は、市民に安全で安心できる水を安定して供給することが求められます。本予算は、安定した財源を確保して経営基盤の強化を図り、安全な水を安定して供給し、災害対策や効率的な施設管理を図るための適正な内容となっており、賛成の意を表します。

